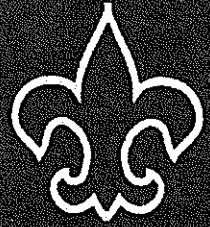


REINANZAKA SCOUT CLUB



スカウトOB・OGの情報交換や交流の場 / 2002年3月30日発行

霊南坂スカウトクラブ

霊南坂スカウトクラブ：霊南坂教会内 107-0052 東京都港区赤坂1-14-3 電話：03-3583-0403

スカウトクラブ総会開催

演奏会・総会・各種報告・他

去る2月24日(日)に霊南坂教会において、スカウトサンデーの礼拝と霊南坂スカウトクラブの総会が開催されました。

スカウトサンデー礼拝の後、子供たちへのスカウトクラブからのプレゼントとして、今年は4人のトロンボーンによる演奏会でした。これは「スライド・マスター・G4」というトロンボーンだけのカルテットです。(尾又好美、斉藤慎之介、原子英介、富樫真人 / 敬称略)

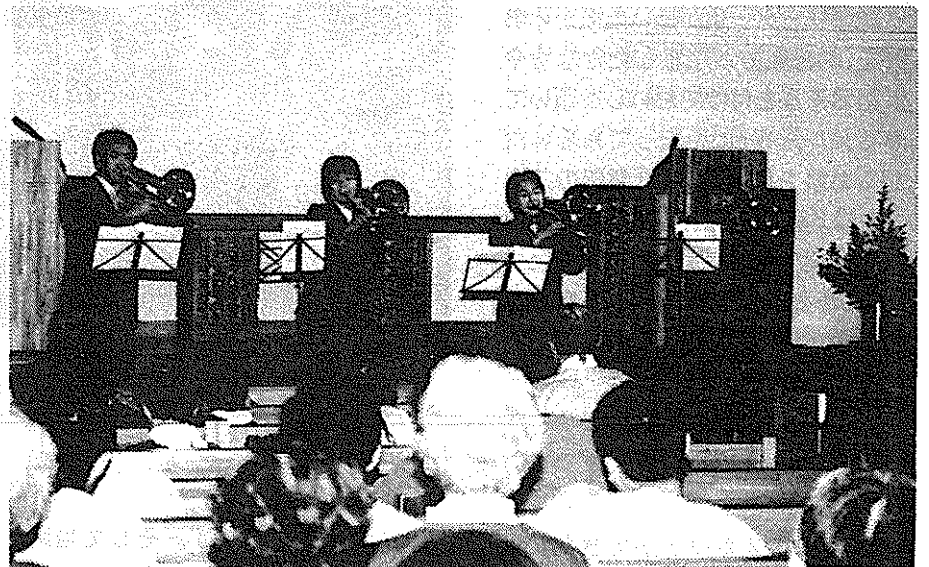
トロンボーンという楽器を子供たちに紹介したほか、クラシック曲や、誰でも知っているポピュラーな「ドレミの歌」を一緒に歌ったり、事前にスカウトソングを覚えてもらって「懐かしの森へ(われはふくろう...)」なども一緒に歌ったりで楽しい時をスカウト達と過ごしました。

■総会

演奏会の後、14:15～15:45に参加者25名で総会が開催されました。(於：教会ホール)

進行は倉持雅人、小崎忠雄会長の挨拶、会計報告、現役リーダーの報告、活動報告および座談。

総会において毎回討議の中心は



いかに多くのOB、OGの方々が参加していただけるようなイベントやプロジェクトの件です。

話合いの中で提案された件「アフガンにスカウトを」を別項でお知らせ致します。

■会計報告

<収入>

前年度繰越金	976,576
会費(113名)	411,000
入会金(6名)	6,000
賛助金(17名)	154,000
雑収入	30,696
利息	624
収入合計	1,578,896

<支出>

教会感謝献金	30,000
シール作成	24,150
X'mas親睦会	55,135
演奏会(トロンボーン)	35,000
55周年行事助成	100,000
スカウト支援費	150,000
通信費(会報等)	84,280
事務費	37,047
会議費	10,600
慶弔他	8,480
支出合計	534,692
繰越金	¥1,044,204
スカウトクラブ基金	
	¥2,211,167

4月29日 靈南坂スカウト 創立55周年行事開催

来る4月29日に靈南坂スカウトが55周年を迎えたのを皆で祝う式典を開催します。既に55周年記念行事実行委員会より皆様へ葉書の送付があったと思われます。身近な

スカウト仲間へ通知が届いていない場合は、スカウトクラブの幹事にご連絡ください。所在不明で会報などを送付しても戻っている場合は会員リスト(非会員も含む)から外れ

ていますので、案内が届きません。

55周年は前回の50周年のような規模では行わず、主に靈南坂スカウトを中心とした式典を予定しております。

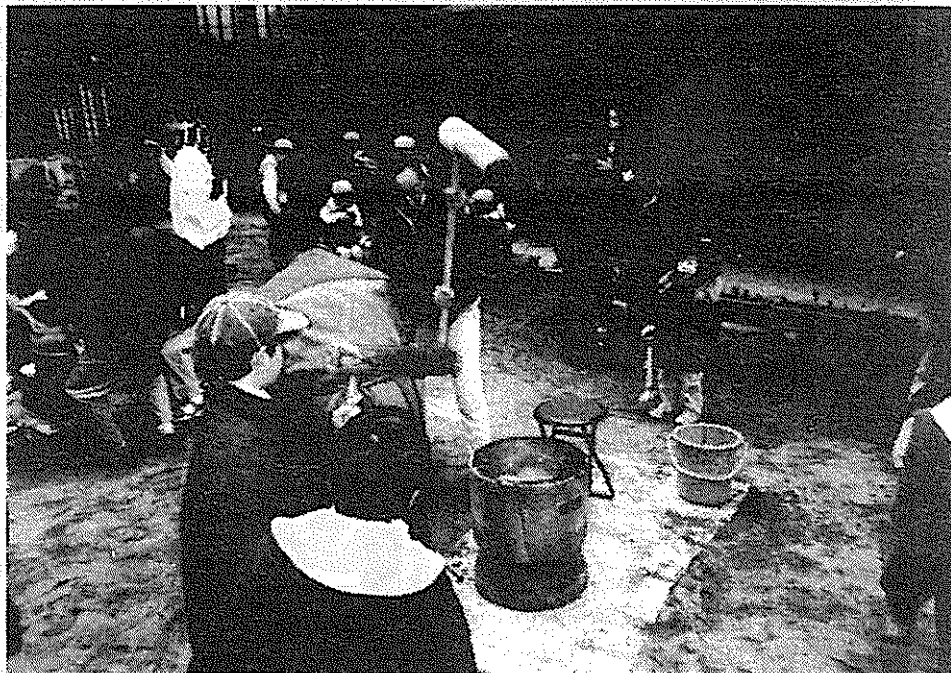
OB・OGの方々においては式典終了後、二次会などで旧交を温める機会を設けるように準備中です。当日、幹事に場所などをお問い合わせください。

餅つき大会

大槻 敬太郎

靈南坂スカウト恒例のお餅つき大会は1月26日(土)に行われました。

当日は曇り空の肌寒い日でしたが集まったスカウト達は、今田団委員長をはじめお手伝いのお父様やボーイ隊のリーダー達が搗いた温かいお餅を、お母様方が用意したきな粉や大根おろしを付けておいしく頂いてから、リーダーに手伝ってもらいながらお餅を搗いたり、低学年のスカウトは幼稚園の保育室で搗いたお餅を自分達で丸めて家へのお土産にしたり、小さな臼と杵を使って自分達でお餅を搗いたり楽しい1日を過ごすことができました。



毎年お手伝いをしてくださるお母様方ありがとうございました。

アフガンにスカウトを

靈南坂にスカウトができたのは1947年2月のことでした。今井襄二氏とWilliams氏の申し出を小崎牧師が快諾したところから歴史がはじまったのでした。爾来55年多くの少年少女がスカウトとして青春時代を過ごしここから社会へと巣立っていったのです。

その頃は渾沌とした世相で大人達は生きるのに精一杯の時代でした。焼跡に住む家も無く、堀立て小屋や公衆便所に住む人も居たことなど今では想像も出来ないような貧しい世の中でした。そんな時代に始まったスカウティングに私達はどんなに夢中になったことでしょう。昨日のよ

うに思い出されます。そして当時スカウトだった少年少女達もはや60歳を越え老年期にさしかかっています。

ところで、私達は折りに触れよく昔の楽しかったスカウティングを話題にし懐かしがります。とても楽しかった思い出が一杯あるのですから当然のことです。しかし55年経った今、この思い出を「楽しかったなあ!」と云って懐かしんでいるだけでよいのでしょうか?

昨年の米国に対するテロ行為から始まり、テロリストの殲滅という大義名分により焦土と化したアフ

ガニスタンには住む家もなく、食べる食物や着る衣服も無い子供たちが大勢います。そして今、世界中の政府やNGO他の支援が行われようとしています。

私達は平和な世の中に住む、不景気とはいえ満ち足りた生活を送っています。そのような状況のなかで何か世の中のためになることをしたいと思い、靈南坂スカウトクラブの事業としてアフガニスタンにスカウトの種をまく活動を始めることとしました。

かつてアフガニスタンにもスカウトがあったのならその復興の手助けをし、なかったのならスカウトを始める手伝いをしたいと思うのです。

当時の我々がスカウティングを通

して生きることの素晴らしさを知り、他の人を助ける優しい思い遣りの心を培った、それをアフガニスタンの子供たちにも分け与え、伝える為にスカウトをつくりたいのです。

幸い50周年の記念行事の際にWilliams氏を招くために作った資金も、Williams氏が亡くなられたためにそのまま基金として残っています。その基金の用途としても相応しいのではないのでしょうか。勿論それだけでは到底足りないでしょうが。

もとより言葉も知らない、生活習慣や宗教も異なる荒廃した国で何時間ができるのか全く判ってはいません。しかしいろいろなルートを探り、いろいろな人の知恵と手助けを得れば、出来ないことは無いと信じます。

そんな面倒を始めるよりどこかの団体に寄付をした方がずっと喜ばれ

るし確実だ、というご意見もあるでしょう。しかしお金を出すだけでは自分達はなにも苦勞をしようとなしいというのが日本の援助の形でした。今我々がしなければならぬのは自分達が行動することではないでしょうか。

当面の活動は、◇状況の把握、◇リーダーとして養成できる人材の確保◇教育、訓練◇用具や書物などの物資の調達◇資金集め、などが考えられますが、最終的な目標はスカウト運動を興すことです。

実際に行動につなげるには多くの知恵と労力が必要です。親愛なるOB、OGの皆様。ぜひ皆様のお知恵とお力をそして皆様がお持ちの知人、友人の人脈を使わせてください。これからの計画の進み具合ではいろいろなルートを頼って道を切り開いてゆかねばならぬと思ひ

ます。よろしくお祈りします。

ぜひ一緒にやりたいという方を待っていますのでご連絡ください。海外に居住されているOB、OGの方にも手伝っていただくことがあると思います。ぜひ手を貸してください。

ご意見などの連絡は以下にお願いします。

●渡辺 澄

195-0055

東京都町田市三輪緑山2-7-4

電話 044-989-8418

FAX 044-989-8021

E-mail: panntra@01.246.ne.jp

●永橋 牧子

153-0064

東京都目黒区下目黒5-6-12

電話 03-3714-5045

E-mail: hashi-f@dk.catv.ne.jp

ピースバック募金のお願い

半年前の米国テロ以来、アフガニスタンの難民についてもクローズアップされてきました。

ガールスカウト日本連盟では国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の指導により1994年度よりパキスタンにいるアフガン難民の子供達に「ピースバック」を贈る運動を続けています。

私達4団ではボーイスカウト（港1団）と一緒にこの事業に参加しています。

「ピースバック」作成の輪も広がり（全国各地の小中学校・地域の方々）これに伴う送料の増額が予想されます。

◆「ピースバック・プロジェクトに掛かる費用」は約500万円（2001年度の見込み）国内輸送費・海上輸送費、但し、半額は外務省からの補助があります。

なお、ピースバックを入れる箱は日本通運（株）から無償で提供されています。これらに伴う費用（日本各地に送る）も外務省とGS日本連盟が負担しています。

このプロジェクトのためにご協力をお願いします。

◆募金 振込先

<郵便振替> 00180-3-82926

（社）ガールスカウト日本連盟
通信欄に必ず「ピースバック募金」と4団関係者である旨を明記してください。

◎インターネットからも募金することができます。

下記ホームページにアクセスして詳細をご覧ください。

ネット募金「ぼきんやドットコム」
<http://www.bokinnya.com>

「愛と平和の小包」 ピースバック

難民の子供もたちが勉強するため文房具、清潔に過ごすために必要な日用品、おもちゃ等スカウトからの友情の気持ちをこめたメッセージを布の袋に入れます。

このピースバックは海上輸送によりパキスタンにいるアフガン難民の子供達一人ひとりに日本連盟の派遣団員によって手渡しされています。

以下の物品ですべて新しいもので、品物に書かれている文字や絵などはイスラム原理主義に反するものに気を付ける。

以下がピースバックに入れる品物の品目です。集めてみようと思われる方は下記の矢澤まで事前に詳細について問い合わせ下さい。

◆品目

1. ノート 4冊（B5）
2. スケッチブック2冊（A4以内）
3. 鉛筆 6本
4. 鉛筆削り
5. 消しゴム 2個
6. ボールペン 2本
7. 定規（30cm以内）
8. 色鉛筆 12色セット（クレヨン可）
9. 車のおもちゃ（ミニカー）
10. 歯磨き粉 1個
11. 歯ブラシ 1本
12. 洗面タオル 2本
13. 縄跳び 1本
14. メッセージ（英語で）

◆詳細問い合わせ先：

ガールスカウト 矢澤宏子

TEL: 03-3555-6375

FAX: 03-3555-6376

大人が変われば、子どもも変わる

杉原 正

いじめの陰湿化、そして青少年犯罪(麻薬の乱用を含む)の低年齢化がすすんでおり、とくに神戸での児童殺傷事件はスカウト教育に関わるものとしては加害者がスカウト年齢であり、被害者がカブ年代であったことに驚愕を覚えました。

この事件をキッカケとして青少年教育や育成に携わる人のみならず大人たちの間では、その原因や対応について様々な話し合いが行われてきました。

一方、私たちの身近では基本的なマナーや社会ルールを守れない青少年が更に増えていること、また、善悪の判断ができない子どもが多くなっていることが指摘されています。

このような現象は、親や大人たちによる基本的な躾けがなされていないまま少年へ、青年へと成長し、他者(自覚する環境を含む)を思いやる心が育っていなかったことに原因があると言われています。

このことは、一つの要因として考えられますが、それだけではなく昨今の日々マスコミに報道される大人自身のマナーやルール軽視、いわゆる大人の社会規範の欠如が子ども達に大きく投影されてこと

を忘れてはいけません。

また、戦後における民主主義の教育の中で、自由、平等、権利などの言葉が、それだけで一人歩きをし、その対比される言葉、例えば自由の裏側に責任がセットされて初めて意義があるにもかかわらず、責任が欠落していたために生まれてきた現象でもあると考えられます。

同時に自分だけよければといった個人主義がともすると私利私欲の方向に全体としては向いたのではないのでしょうか。

「モノ」が豊かになり、「カネ」がより多くなることが幸福になる道への最優先とした考えが社会現象として蔓延した結果ともいえ、私たち大人がこれまで欲望のおもむくまま物質の豊かさを求めてわき目もふらずに突き進んできましたが、いまここで立ち止まって周り(世界や地球規模)を見渡す最後のときを迎えていると思います。

いま話題となっている書籍「世界が、もし100人の村だったら」では、「いろいろな人がいるこの村では、あなたと逢う人々を理解すること、相手をありのまま受け入れること、そして何より、そういうことを知ることが、とても大切に

す」と序文の中に書かれており、また「日本村100人の仲間たち」の序文の中で『子どもは大人社会の縮図です。子どもを見ればその国がわかります。日本は「モノ」があふれてる世界で有数の豊かな国です。

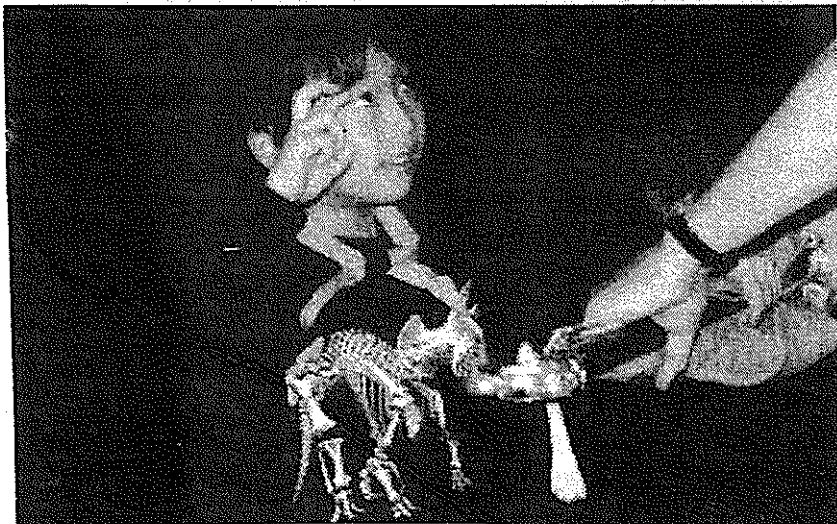
しかし、豊かさは「物質的」な享受ではありません。インドやタイのように貧しい国でも、子どもたちは、はじけるような笑顔とともに生きています。(中略) 幸せの分量をはかる方法については、日本人は「オカネ」というモノサシしかもっていませんが、他にもたくさんモノサシがあることに、そろそろ気づかないといけません』と語られています。

私たちは、21世紀を託する子どもたちをスカウト運動という学校外教育の場で育成しようとしています。子どもたちの頭在する様々な問題は、私たちの大人の姿の投影にすぎません。

大人が変われば子どもは変わります。大人の姿をみて育つ子どもにとっては大人の姿勢が鍵となります。

少年、少女の若き日にスカウティングの恩恵に浴した霊南坂スカウトの皆様が、それぞれの生活の場で地域のおじさんやおばさん(また、地域のおじいさん、おばあさん)として生きることには大変意義があり、地域の中で一人ひとりの大人が生き生きと生きることが子どもたちに感化を与え、より良き方向に子どもたちを育み、また成長を促すことになると様々な実例の中から感じております。

子どもたちや、若者の育成について、これからも強い関心を持っていただき、その周りのできごとでご協力いただければと願っております。



ビーバー入隊式の写真

燃やすことは罪

佐藤 禮子 (旧姓 長瀬)

燃えろよ燃えろよ
明るく 熱く
炎をまき上げ 天までこがせ

少女時代、キャンプ・ファイアーで大声で歌ったあの無邪気な自分には、もう二度と戻れません。

なぜ、そんなに燃やすことが罪だと感じるようになってしまったのでしょうか。

事の起りは前回同様、近所に建ったごみ焼場の反対運動からなのです。

どんなモノを燃やしても必ずそこから有毒な物が出ます。料理をする時に換気扇を回すのはそのためです。家庭焼却炉でごみを燃やしている方はないでしょうね。田舎の方は大丈夫ですか。

でも燃やすとごみの量は減るし衛生的だということで我が国はごみの焼却天国なのです。世界中のごみ焼き場の煙突の72%は日本に、そこから非意図的に出て来る猛毒ダイオキシン量も日本はダントツです。燃やした後の灰も「花咲かじいさん」時代と違い、自然界が自力で分解出来ない程たちが悪いのです。

ごみの中にはプラスチック類はじめいろんな化学物質がワンサと入っているので、それらを燃やしたり、埋めたりしたら考えてもいなかった毒物が大気や土壌や水に出て海を汚し、そこに暮らす魚や貝の中に入り、最後にはものすごく微量でもそれらを食べた人間の身体、特に胎児に問題が起きるのです。

人間はダイオキシン類はじめ多くの外因性内分泌攪乱化学物質、いわゆる環境ホルモンで生命系にわるさをしています。でも、そのことの危機意識、罪の意識がとても弱く傲慢に豊かさを享受し続けているのです。



東京湾の魚や貝の汚染の数値も判っているのですが、規制はありません。

妊婦、授乳婦だけでも注意するような情報を出すべきだと国に云っているのですが…

若い世代に申し訳なく、恥ずかしく日々心を痛めています。

やっとここに来てダイオキシン汚染対策の法律が出来、性能のよい焼き場にするため莫大な税金を投入しています。でも、有限な地球の資源は一度燃やしてしまったら、決して本の資源には戻りません。循環型社会形成の法律も出来たのですが、実際には燃やすから燃やさない政策にはまだまだ転換されていません。

じゃあ、どうしたらいいの？ 身近に出来る事、気づいたことからやるしかないと思います。

例えば、

- ・生ゴミは燃やさないで土に還元する方法を学び実践する。
- ・紙類・缶・瓶・トレイ・布などは徹底分別して、再生品を使う。
- ・汚染現場を、五感で感じる機会を多く共有する。

(サーファー達がここの海が「にがい」といっている。植物が枯れている。シックハウス・

スクール、ぜんそく、アトピー化学物質過敏症、子宮内膜症、不妊、癌などで辛い思いをしている方の話を聞く。不法投棄の現場を見る。メダカがいなくなった小川に入ってみる。汚染実態調査、ごみ拾いなどに参加してみる。 などなど。

- ・税金の使い方に関心を持つ。
- ・始末出来ないものは造らない。売らない、買わない社会になるよう実践し、機会あるごとに仲間を増やす。
- ・まず自分たちの愚かさ、罪深さに気づき、そのことを率直に子ども達に詫言、伝え、謙虚に育て貰うように力になる。 などなど。

明るい展望が語れない時代に生まれて来た子ども達に、何を語り継ぐ事ができるか、真剣に悩み、考え、勇気をだして行動するスカウト運動を支える「大人に希望」を託します。

2002年4月29日

霊南坂スカウト
創立55周年行事

マタグアイスカウトキャンプ参加

アメリカカリフォルニア州

2001年度神奈川連盟
スカウト海外派遣(横浜第34団ベンチャー隊長)
神奈川連盟スカウト海外派遣隊長
清水 裕

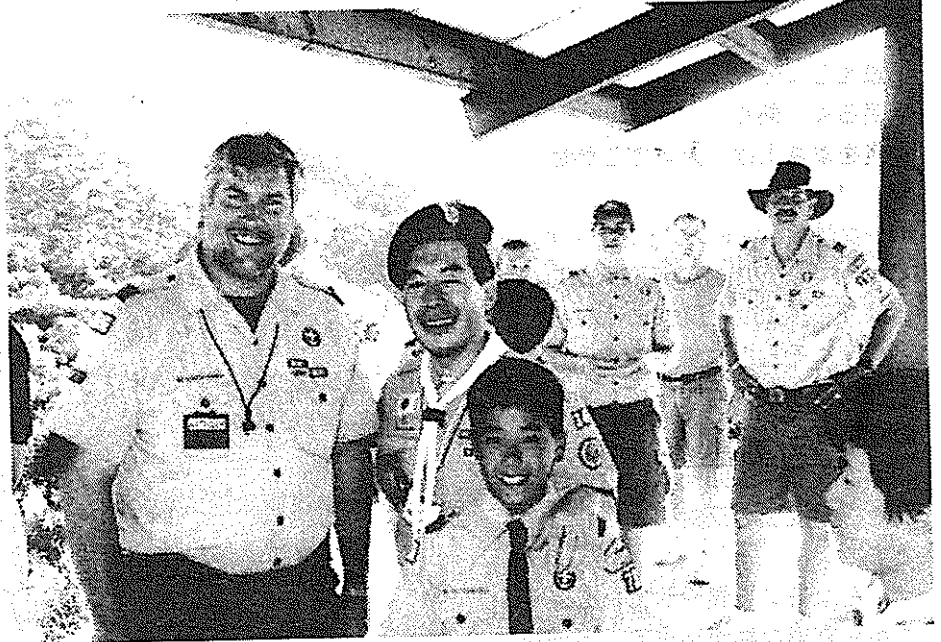
私は、約40年前靈南坂でスカウトとなり、20年ほど前から横浜に住んでリーダーを続けております。私も杉原さん、遠山さんを隊長・副長、新崎さんをデンマと呼ぶことのできるしあわせなスカウトの一人だと思っています。

この度、塚田さんから何か原稿をとの話がありましたので、昨年夏神奈川連盟から派遣されてアメリカ・カリフォルニア州サンディエゴの奥地インディアンの「白い台地」という意味を持つMataguay Scout Reservationへ20名のスカウトを連れて行った報告を致します。この原稿は、神奈川連盟広報誌「やまゆり」に掲載されたものを、一部手直し致しました。

平成13年7月28日午後1時、私たち神奈川連盟海外派遣隊は、連盟長やスカウトのご家族の見守る中、ロサンゼルス向かう飛行機に乗るため、バスで成田空港へ出発しました。8月7日までの11日間の旅への出発です。初めての海外旅行、初めての飛行機というスカウトが何人もいましたが、マレーシア航空での約11時間後、現地時間で12時過ぎに、抜けるような青空とからっとしたロスアンゼルス空港に、全員元気に到着しました。

翌29日朝、バスでアナハイムのホテルを出発して約5時間、国道5号線をオーシャンサイドから分かれて東に60Km、マタグアイ・スカウトリザベーションに到着。すぐに青いスタッフシャツを着た高校生ぐらいのスカウト2人が私たちのバスに乗り込んで来て、以後ずっと私たちの世話をしてくれました。後で気づきましたが、400人程が同時にキャンプができるこの広大なスカウトキャンプ場の運営は、全て約80名程の地元のベンチャースカウト達がおこなっており、大人のリーダー達がこのキャンプ場の運営に直接タッチすることは殆どないのだそうです。

アメリカのベンチャースカウトは、日本とは異なり、ボーイスカウト部門の延長線上にあるのではなく、14歳～22歳までの独立した部門で、唯一女子の入隊を許可しているとのことでした。プログラムの進行は全てSPLつまり上班とスタッフの話し合いによって進められていましたし、またスカウト達もそれを至極



当然のように受け取っていました。毎日SPL会議が開かれ、翌日のプログラム内容の話し合いやプログラム参加申し込みがなされたり、注意事項や指示事項が伝達されたりするので、会議は皆真剣で、日本隊の上班は大変な苦勞をしながら理解をしようとしていました。幸い日本での事前集会で、徹底的にフィールドブックを検討したおかげもあり、日本隊の動きはスムーズに行くことが出来ました。

キャンプ場は標高約1000m、広さ760エーカー(308ha)の土地に26のキャンプサイトと、2カ所のプールや人造湖がありますが、プールはここでは大変重要な役割を持っています。気候が乾燥していて、細かいパウダー状の土埃が常に舞っているマタグアイでは、体の清潔を保つことや脱水症状を防ぐこと、また防火対策上の役割もあって、水のプロがたくさん用意されており、到着早々に全員がまず泳力テストを受ける仕組みになっています。

毎早朝ガタガタと震える程寒い中で行われるWaterdogsと呼ばれる早朝水泳や、Blgsprashと呼ばれるScoutmaster(隊長)による飛び込み競技、また本格的カヌーや3人で組になって泥沼を泳いで渡る競争などもあります。またこのマタグアイに来るスカウト達皆が楽しみにしているプログラムに、“水”合戦があります。大きなポリバケツ一杯に水風船を作ってBlackfoot岩に立て籠もるリーダー達を、スカウト達が水鉄砲ならぬ水大砲を抱えて追いかけるゲームは双方とも真剣勝負です。

なかでも特徴的なものとしては、Rugged“O”があります。“O”はオーバーナイトの頭文字で、いわば夜間プログラムのことです。水曜日の午後になると10種類程もあるRugged“O”プログラムの中から、皆思い思いのものを選んで、寝袋を抱えて一斉にサイトを出てゆき、翌日の朝に帰って来きます。サイトはもぬけの殻になるため、手持ちぶさたになるリーダー達は、街に下りて会食をすることになっています。マウンテンバイク、星座観測、野営、登山、イーグルキャンプ、きもだめし、スキルアップ等々夜を徹して行われるこれらのRugged“O”プログラムは、いずれもメリットバッジにつながる大変重要な位置づけがなされていますし、参加章としてなかなかすばらしいワッペンが与えられます。

さて今回この派遣隊は、ベンチャースカウト14名、ボーイスカウトが3名でしたが、ベンチャースカウトのうち菊章を取得していたスカウトは何と10名いて、7割強にもなっていました。全県下から集まることは大変なことであっただろうと思いますが、全6回、1回当たり8時間、最終回には丸2日間にわたる派遣事前集会をスカウト会館で開きました。私がこの集会を通じて、幾度も繰り返して話しをしてきたことは、「各自の派遣目的を具体的に明確にする」ということでした。特にベンチャースカウト達には、この海外派遣をベンチャープロジェクトとして取り上げ、全員が企画書を書いて、その中で目的と目標を明確にし、原隊の仲間と隊長の承認をもらってくるよう要請し

た結果、最終の集会日には全員の企画書
が仕上がり、派遣期間を通じて、この企
画書に従った活動を行うことが出来まし
た。

「最低50人の外国スカウトと友達になっ
て文通やメールの交換をする」「音楽やス
ポーツの文化交流をする」「日米のスカウ
トキャンプの違いを調べる」「日本の認識
度に対するクイズを作成して日本を紹介
する」「100枚の名詞を配って自作のサイ
ン帳にサインをもらう」「日米の気候風土
の違いを調べる」「アメリカの進歩制度に
ついて日本との違いを探求する」等々ど
ても面白いテーマが並びました。

140種類もあるというプログラムを一
通り体験したので、最終2日間は各自の
プロジェクトを実施する期間としました。
グループで行動することを禁止し、一人
ずつ行動して日本人同士で出会っても日
本語は話さないことと決めました。スカ
ウト達はこの頃になると既に相当英語
にも慣れ、何とか自分たちの意志を通じ
させることが出来るようになってしまっ
たが、ノートを片手に何度も何度も同じ
質問を繰り返す姿は、とても印象深いも
のでありました。

スカウト達はDaily Itinerary (日記帳)
を毎日書きました。顔と胸をスイカだら
けにした楽しいプログラムのこと、アメ
リカのスカウトと英語で話せたこと、ア
ップルパイが甘くて驚いたこと、クラフ
ト用の皮材料の値段がまちまちだったこ

と、山に登って見た夕日が本当にきれい
だったこと、甘ったるいけれど味がない
食事のこと、でかいうなぎが釣れたこと、
スカウトキャンプでシューティング (鉄
砲) をどンドン撃たせること、寒くて夜
眠れなかったこと……私は毎日夜遅くま
でかかって、一人ひとりに感想を書きま
したが、どの日記もどんな小説よりもす
ばらしい物語が展開されていて、読んで
いて楽しく、また時には熱いものが胸に
こみ上げて来ることもありました。夜
遅く一人でランタンの明かりで感想を書
いていると、2時を過ぎたころに毎晩、
一抱えもある大きなタヌキが寄ってきて、
机の上にある残り物のアップルパイを食
べながら、不思議そうに私を見ていまし
た。

最終日の前夜、クロージングキャンプ
ファイアーが開かれました。3発の銃が
撃たれ4人のスカウトに四隅を持たれた
大きなアメリカの国旗が、厳かに入場し
て来ました。何をするのか解らない私た
ちの目の前で、国旗が3つに切り裂かれ、
ゆっくりと火にくべられてゆきました。
古くなった国旗や地面に落としてしまっ
た国旗は、このようにして燃やされるの
だそうです。行動が何となくいつもだ
らしなく見えるアメリカのスカウト達も、
国旗の前では別人のようになります。帽
子を胸の前に持ち、微動だにしない姿を
見せます。あらためてアメリカスカウト
の自国に対する想いを見たように思いま

した。

日本隊はたくさんの方のアーワードを取
得しました。クロージングセレモニーで日
本隊の名が呼ばれる度に大きな拍手が沸
き上がりました。最後にあらためて日本
隊が紹介され、私がお礼とお別れの挨拶
をすると、参加者が全員総立ちとなって
盛大な拍手が沸き上がりました。スマー
トなセレモニーの演出に、逆に感心させ
られました。

最終日、シルバロッジで日本からの土
産の盾を贈り、友達となったスカウトや
スタッフと名残を惜しみました。かけが
いのない数々の思い出を残して、からか
らに乾いた空気と、紺碧の青空と照りつ
ける太陽、おいしい水があちこちに湧き
あがる不思議な大地、大きな煙の木に
囲まれたマタグアイスカウトキャンプ場
をあとにしました。

8月7日夜9時過ぎ、夜遅いにもか
かわらず出迎えて頂いた連盟長やご家族
が用意して頂いた大きな花束に迎えら
れて、派遣隊は無事スカウト会館に到着
、解散式が行われました。私は、この結
果を原隊の中で報告して評価を得ること
、一連のプロジェクトを完成させること
、全員がいずれアーワードを取得して欲
しいと締めくくりましたが、きっとスカ
ウト達は、必ずこの海外派遣の成果を出
してくれることと思います。(完)

スカウトはみんな 未来の天才

永橋 牧子
(旧姓 黒部)

りーだ一の皆さんは、どこに重点を
おいてスカウトたちを見ているですか？

どんな視点で評価しているでしょう
か？「〇〇さんは集会にも休まず出席
し、まじめで立派なスカウトです」、「と
ても活発な元気のよいスカウトです」
などのほめ言葉だけでの肯定的評価が
できますか？

山本紹之助氏は、子どもを正しくと
らえるための四つの視点として、1学
力(知・智)、2信用度(誠・行)、3
社会性(明・暖)、4健康度(体・心)
が考えられると述べています。「知」は
知識、「智」は智慧で、「誠」はまごこ
ろ、「行」は実行、行動することです。
「明」は明朗、愉快、「暖」は心のあた
たかさ、やさしさです。「体」はからだ
の健康であり、「心」はこころの健康で
す。これらが総合して人間力となるも
ので、人間の力はこのうちのひとつだ

けで判断してはいけなと言われてい
ます。

今、子どもたちの状況はどうでしょ
うか？スカウトの集会に行くよりも、
塾に通った方がいいと思う子どもた
ちが多くいることは疑えないと思います。
「よい点をとるため」、「よい学校へ入
るため」、「勉強から落ちこぼれないた
め」などの塾通いの理由は、勉強ので
きる子どもは「優秀な子」、できない子
どもは「だめな子」とレッテルを張ら
れている現状からではないでしょうか。

このように他人と比べてできる、で
きないと評価されて人間の価値が決
められてよいものでしょうか。人間一
人ひとりがもつものに根差した絶対
評価が大切であり、一人ひとりを認
め、尊重することでもあると思います。

スカウト活動のなかでは、勉強の落
ちこぼれも、人間の落ちこぼれもつく



らないようにしたいものです。スカウ
トを多面的、総合的に正しくみる努力
をし、他の人と違う一人の人間として
の力を“生かしていく”ことに手助け
ができるならば、それはすばらしいこ
とです。

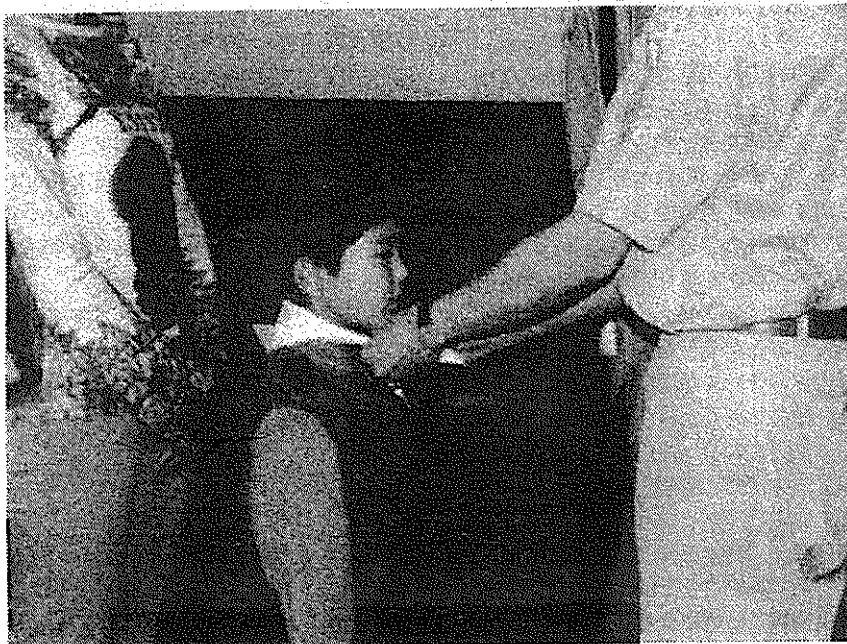
日本ガールスカウト機関誌「リーダー」第
140号掲載(89年7月)より抜粋。当時、
日本連盟国際書記を務める。

ビーバー入団式の様子

靈南坂 スカウトクラブ への賛助金

1994年から2002年2月22日までの間に賛助金としてご協力いただいた方々に感謝を込めて名前を掲載させていただきます。(敬称略)

青木義明、安積発也、飯泉和行、石田隆一、今井襄二(故人)、今田富士雄、大胡晋一、大谷徳義、大浜良友、片岡孝、川寄豊、川正興、菊田方晴、九鬼隆甫、小崎忠雄、小松正太郎、志水功、下河辺元春、鈴木武夫、関口敦夫、高橋準一、高橋徹次、高橋弘長、龍茂久、中郡伸一、永山茂樹、針替茂人、萬石俊夫、村田守昭、百塚竜一、脇村仁樹、鷲崎文彦、渡辺博、渡辺誠、渡辺雅弘、井上毅、安部貴美子、安西松江、飯島千恵子、飯田誠子、池田早苗、石井喜美江、大石朋子、太田幸子、大塚多恵子、岡田靖子、小河るり子、河合潤子、川洋子、川田仁子、北畑十恵子、倉田侑貴子、倉持和子、黒部峰子、後藤田淳子、西郷崇子、西郷尚子、斉藤圭子、鈴木栄子、須田美弥子、関山真理子、芹野朝子、田付茉莉子、田中楨子、中村美津江、中村美枝、永山理恵子、日野珠子、藤沢ゆ



★今日から僕もビーバー隊員だ！

う子、松下俱子、萬石由紀子、宮治美江子、森下あつ子、八木千恵子(故人)、山田紀代、山田里絵子、山田真伊子、鎗田宝栄、吉田恵子、脇村茉莉子、和田富士子

表紙の総会での会計報告にもありますが、200名以上の皆様が会員になっていただいております。半数以上の方に継続して会費を納めていただき運営しております。会費は年間3000円となっておりますが、額に関わらず、また、賛助金等、随時受付けておりますので、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

4月29日には靈南坂スカウトが発足してから55周年となります。OB、OGの方で連絡がない場合で行事などに参加されたい方は幹事までご連絡ください。

ご案内を送付するかインフォメーションをお知らせします。今回の周年記念委員会から連絡するか、SC幹事から連絡をいたします。

E-mail / 電子メール

スカウトクラブの会報は年に3回、あるいは多くて4回となっています。

3~4ヶ月の間に事柄によってですが、できるだけいろいろなことを皆さんに早くお知らせしたいと幹事会では希望しております。

そこで、現在E-mail Addressをお持ちの方は下記まで電子メールでアドレスをお知らせください。会員・未加入会員を問いませんのでお気軽にご連絡ください。(河内宛)

連絡先: E-mail Address
riverys@fancy.ocn.ne.jp

意見・寄稿を募集中

広く皆様のご意見や寄稿を募集しています。ビジネスに役立つ情報交換を希望される方からのものも掲載していきますので共有できる情報を左記の幹事宛に送付ください。

靈南坂スカウトクラブ連絡先

入会申込・問合せ等:

(郵便) 107-0062 東京都港区南青山7-11-5 日下部 宛
(ファックス) 03-3400-0399 (電話) 03-3400-0331

会費・ご寄付等:

(郵便) 105-0001 東京都港区虎ノ門1-19-5 杉原 宛
(電話/ファックス) 03-3501-3998
振込口座番号: 靈南坂スカウトクラブ
(郵便局経由) 00160-1-615237

通信・ご希望・ご意見等:

(郵便) 150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-3-303 河内 宛
(ファックス) 03-3464-8276 (電話) 090-4919-2941
(E-mail) riverys@fancy.ocn.ne.jp